

排出削減実績報告書

排出削減事業の名称：

工場における重油ボイラーから
高効率都市ガスボイラーへの更新

排出削減事業者名：長泉パーカライジング株式会社 印

排出削減事業共同実施者名：丸紅株式会社 印

その他関連事業者名： 印

申請日： 年 月 日

1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	長泉パーカラライジング株式会社
排出削減事業を実施する事業所	
事業所名	本社工場
住所	〒411-0934 静岡県駿東郡長泉町下長窪 1088
排出削減事業共同実施者（国内クレジット保有予定者）	
排出削減事業共同実施者名	丸紅株式会社
その他関連事業者（注3）（複数の関連事業者がいる場合、行を挿入し全ての関連事業者を記載すること）	
関連事業者名	

2 排出削減活動の概要

2.1 排出削減事業の名称

工場における重油ボイラーから高効率都市ガスボイラーへの更新

2.2 排出削減事業の目的

工場で使用しているボイラーを高効率の機種へ更新し、省エネルギーを図るとともに、重油からガスへの燃料転換により、二酸化炭素排出量を削減する。

2.3 温室効果ガス排出量の削減方法

現在使用中の重油ボイラーを高効率都市ガスボイラーへ更新する。これにより、エネルギーの使用の合理化を進めるとともに、二酸化炭素の排出原単位が小さい燃料へ転換することで、二酸化炭素排出量の削減を図る。

（備考）排出削減事業に関わる設備について記入する。

例）高効率設備への更新

LPG焼成工程設備からLNG焼成工程設備への更新プロジェクトの設備概要

注）設備更新の場合は、次の様式に従って、排出削減事業に関わる設備について記載のこと。

2.4 国内クレジット認証要件の確認

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

2.5 承認排出削減事業計画からの変更項目

- ・排出削減事業開始後プロジェクト境界外において都市ガスを使用する設備の増設があり、計

画された燃料使用量のモニタリング方法「都市ガス会社からの請求書に記載された数量を標準状態に換算して集計」を当該設備の増設時点以降「都市ガス会社からの請求書に記載された数量を標準状態に換算後、プロジェクト境界外の設備による都市ガス使用量計測値の標準状態への換算値を控除して集計」に変更する。なお、控除すべき都市ガス使用量の計測値は削減事業実施地近隣の気象庁三島測定局の月次平均気温データに基づいて標準状態に換算して精度を向上させており、モニタリング方法の変更による排出削減量の精度の低下は抑止されクレジットの過剰交付に結びつくことはない。また、設備の増設はプロジェクト境界外におけるものであり、本排出削減事業に適用されている方法論の適用性や排出削減算定方法に抵触するものではないといえる。

3 排出削減活動期間

3.1 プロジェクト開始日

2012年 1月 5日

3.2 モニタリング対象期間

(本報告における実績報告期間)

2013年 4月 1日 ～ 2019年 3月 31日

4 温室効果ガス排出削減量

4.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
001	ボイラーの更新

4.2 活動量

排出削減事業が活動量指標を採用している場合、排出削減事業計画 5 項に沿って記載。

4.2.1 活動量・原単位

対象	活動量	原単位
----	-----	-----

4.2.2 活動量の採用根拠

活動量は採用しない。

4.3 事業の範囲（バウンダリー）

本事業では、更新前が A 重油ボイラー3 台、更新後が都市ガスボイラー3 台で、工場プロセスインへ蒸気を供給するヘッダーまでを算定のバウンダリーとする。

5 モニタリング対象指標

排出削減事業計画 7.1 項を参照して記載。記載内容に変更のある場合、変更理由を項目ごとに記載すること。

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法・ 根拠資料	(モニタリング方法に変更ある場合、) 変更理由
$F_{fuel,PJ}$	事業実施後（燃料転換後）の燃料使用量	千 m ³ N/年	2013 年度：402.7 2014 年度：407.9 2015 年度：415.3 2016 年度：409.7 2017 年度：437.3 2018 年度：427.8	都市ガス会社からの請求書に数量※を標準状態に換算後、増設されたプロジェクト境界外の設備による都市ガス使用量計測値の標準状態への換算値を控除して集計する。	2013 年以降、プロジェクト境界外に都市ガスを使用する設備が増設されたため。
$HV_{fuel,PJ}$	事業実施後の燃料の単位発熱量	GJ/千 m ³ N	2013 年度～2014 年度：45.1 2015 年度～2016 年度：45.0 2017 年度～2018 年度：45.1	デフォルト値（都市ガス）	変更なし
ε_{BL}	事業実施前ボイラー効率	%	2013 年度～2018 年度：90.3%	カタログ値より算出（高位発熱量基準）	変更なし
ε_{Pj}	事業実施後ボイラー効率	%	2013 年度～2018 年度：88.2%	カタログ値より算出（高位発熱量基準）	変更なし
$CF_{fuel,BL}$	事業実施前燃料(A 重油)の単位発熱量あたりの排出係数	tCO ₂ /GJ	2013 年度～2018 年度： 0.0708	デフォルト値（A 重油）	変更なし
$CF_{fuel,Pj}$	事業実施後燃料(都市ガス)の単位発熱量あたりの排出係数	tCO ₂ /GJ	2013 年度～2018 年度： 0.0513	デフォルト値（都市ガス）	変更なし

7 排出削減量の計算

承認排出削減事業計画において採用した算定式に基づき、モニタリング対象項目実測値等を反映した計算結果を記入すること。

注) 複数の方法論を採用している場合は、方法論ごとに排出削減量の計算結果を記入すること。

7.1 事業実施後排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013 年度	402.7	45.1	0.0513	931.7
2014 年度	407.9	45.1	0.0513	943.8
2015 年度	415.3	45.0	0.0513	958.8
2016 年度	409.7	45.0	0.0513	945.9
2017 年度	437.3	45.1	0.0513	1,011.7
2018 年度	427.8	45.1	0.0513	989.8
単位	千 m3N	GJ/千 m3N	tCO2/GJ	tCO2
	EM _{PJ}			5,781.7

7.2 ベースライン排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013 年度	17,739.2	—	0.0708	12,55.9
2014 年度	17,969.8	—	0.0708	1272.3
2015 年度	18254.7	—	0.0708	1292.4
2016 年度	18,009.0	—	0.0708	1275.0
2017 年度	19,262.1	—	0.0708	1363.8
2018 年度	18,846.5	—	0.0708	1334.3
単位	GJ	—	tCO2/GJ	tCO2
	EM _{BL}			7,793.7

7.3 リークエージ排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013 年度	0			0
2014 年度	0			0
2015 年度	0			0
2016 年度	0			0
2017 年度	0			0

2018年度	0		0
	LE		0

7.4 温室効果ガス排出削減量

項目		記号	
ベースライン排出量	(7.2)	<i>EM_{BL}</i>	7,793.7
事業実施後排出量	(7.1)	<i>EM_{PJ}</i>	5,781.7
リーケージ排出量	(7.3)	<i>LE</i>	0
温室効果ガス排出削減量		<i>ER</i>	2,012

8 省エネルギー量

注) 複数の方法論を採用している場合は、表を追加して方法論ごとにエネルギー使用量を記載すること。

	モニタリング期間 (2013 年 4 月 1 日 ~ 2019 年 3 月 31 日)							
	エネルギー使用量			熱量換算 (GJ)		原油換算 (kl)		
	単位	ベースライン	実績	ベースライン	実績	ベースライン (①)	実績 (②)	ベースライン - 実績 (①-②)
A重油	kl	2,811.2		109,917.6		2,835.9		2,835.9
都市ガス	千 N m ³		2,500.8		112,534.7		2,903.4	-2,903.4

省エネルギー量 (原油換算) = -67.5 kl

9 再生可能エネルギー利用量

	モニタリング期間 (年 月 日 ~ 年 月 日)		
	エネルギー使用量	熱量換算 (GJ)	原油換算(kl)
	単位 (実績)	(実績)	(実績)